

『現場が見える 輸液の知識と患者ケア』 看護実践で役に立つ。 現場が見える参考書

編：中村美鈴，布宮 伸／152 ページ／2008 年
定価 2,310 円（本体 2,200 円＋税 5%）
発行：医学書院／TEL：03-3817-5657



これまでの臨床における輸液に関する文献は多くが医師の視点で書かれた体液管理に関するものと、点滴静脈内注射の手技に関する看護師の手順書的なもの、輸液に用いる薬剤に関するものなどがそれぞれに分かれて書かれていました。本書を手にとって、“看護の視点で使うことができる輸液と点滴静脈内注射に関する集大成となる本ができた”とまず初めに思いました。編集をされたお一人である中村氏が「はじめに」の中でも述べておられるように、まさに「看護実践で役に立つ」本ができたと思います。

内容は、輸液がなぜ行われるのかの理解のために、水・電解質の基礎知識から酸・塩基平衡に関するアセスメントがわかりやすく説明されています。次に輸液で使用する器材の説明が、これもたくさんの図や写真を用いてわかりやすく書かれています。次にこれは1冊になっていると便利であると思った部分ですが、多くの薬剤についてその特徴まで丁寧に説明されています。さらに実施の実際と観察ポイントや考えられる合併症について、局所的なことから全身的なことに至るまで述べられています。点滴の援助の実際では日常生活援助の細かい部分にまで、たくさんの写真入りで懇切丁寧に説明されています。なるほどなるほど……と思わされます。

近年、静脈内注射については医師の指示のも

とで看護師が行うようになってきました。それを受けようとして看護基礎教育でも点滴静脈内注射の実際に関する技術教育について多くの時間を取るようになっていこうと考えられます。しかし、看護基礎教育における実践力教育については課題が多いのが現状です。薬物療法についてもリアリティのある教育の実践には多くの教育現場で苦慮していると推察されます。卒業の時点では修得とまではいかない技術力をもって卒業生は次々に現場に立ち、（患者の協力のもと？）苦労しながら薬物療法時の看護を実践していると考えられます。

そのような中で実際的でわかりやすい本書が看護基礎教育の学生や新人看護師をサポートするものになると考えます。中村氏はどこから読み始めていただいてもよいと記しておられますが、学生の場合、学内では輸液の目的と適応（2 頁）、輸液ライン準備の基本手順（43 頁）からはじめ、輸液で使用する器材などが活用できます。隣地実習では輸液試行中の患者ケアのポイント（104 頁）や使用される主な製剤（50 頁）などが実際的となるでしょう。また臨床の看護師には合併症予防（76 頁）や急性期の事例（126 頁）などが参考になると考えます。急性期患者に用いる薬剤の一覧は、微量で大きな作用を及ぼすものも多く、臨床では重要な知識となるものです。まさに現場が見える実際的な参考書であると考えます。